原　著

環境の必要性，快適性，贅沢さに関する研究
―老人と大学生の比較―

安藤孝敏*　相馬一郎**　山本多喜司**
チャールズ・W・ゲイ**

A Study of Necessity, Amenity and Luxury in Environment：
―Comparison of Senior Citizens and Students―

Takatoshi Ando*, Ichiro Souma**, Takiji Yamamoto**
and Charles W. Gay**

This study was to examine similarites and differences in the experience of necessities, amenities and luxuries between senior citizens and students. A questionnaire requested to select 10 items (5 items in part) from the lists of necessities, amenities and luxuries for physcial, interpersonal and sociocultural aspect of the environment, as well as answers to demographic questions. The questionnaire survey was conducted on 291 senior citizens and 106 students.

The result indicated that the great similarities between responses of senior citizens and students occurred for "necessity", "amenity" and "luxury" for the physical environment. With respect to the content, the senior citizens show greater emphasis on the social foundations in necessity and amenity for the sociocultural environment, while the students show greater emphasis on the personal demands in amenity for the sociocultural environment.

人々の環境に対する理解が深まるにつれて，アメニティ(amenity)というものが注目されるようになってきた．アメニティについて辞書を引くと，場所・気候・環境の快適さ，性質・態度などの感じのよさ，好ましさ，生活を楽しくするもの，もしくは便利にするものと書かれている．辞書の定義を見ても分かるように，アメニティという概念はとらえどころのない，曖昧なものである．アメニティというものは，単に一つ一つの特質に対する評価ではなく，全体的な状態に対する評価である．

Wapner (1988[1], 1989[2]) は全体論的発達的システムの枠組みでアメニティを分析する意義について述べ，また予備的な調査の結果について報告している．さらにこれまでの研究を発展させて，Wapner et al. (1990)[3]は環境アメニティの比較文化的研究を行っている．物理的環境，対人的環境，社会文化的環境という環境の3側面それぞれで必要性，快適性，贅沢さの体験に関して，アメリカと日本の大学生の調査結果から両国の類似性と差異性が分

※　本研究は平成2年度文部省科学研究費補助金一般研究B（代表者：相馬一郎，課題番号02451018）によって行われたものの一部である．

*情報科学研究教育センター
**人間健康科学科

* *Centre for Informatics*
** *Department of Human Health Sciences*

表1　被調査者の年齢

	大学生（N＝106）			老　人（N＝291）		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
平均年齢	20.2	19.5	19.9	75.1	72.0	73.2
標準偏差	1.9	1.5	1.8	5.4	4.7	5.2
最高年齢	26	24	26	92	84	92
最低年齢	18	18	18	62	61	61

析された．物理的環境の必要性のカテゴリーは両国で共通した項目が示され，もっとも共通性が高いカテゴリーであった．また，物理的環境の快適性，贅沢さのカテゴリーでは類似する項目が示されていた．この結果は，生活するうえで必要なものは文化に関係なく共通しているということであり，対照的に快適さや贅沢さはマスメディアや西洋的な生活の志向などの文化的要因と密接に関係しているということである．また，対人的環境や社会文化的環境では両国間にかなりの差異が見られた．たとえば，日本では直接的な対人関係（親子，兄弟・姉妹，恋人など）を，アメリカでは対人関係への抽象的な係わり（愛情，尊敬，信頼など）を重視していた．

必要性のカテゴリーでは共通性が見られ，快適性，贅沢さのカテゴリーでは特異性が見られたという結果は，必要性が日常生活における経験に，快適性や贅沢さが個人の求める生活の内容に深く関係するということを示唆している．

比較文化的な研究から見いだされた結果であるが，同一の文化においても，個人が求める生活の内容は年齢や職業などで異なっており，これらの要因を検討することが必要である．

そこで本研究は，環境アメニティの評価に影響を及ぼすと考えられる要因として年齢を取り上げ，「アメニティ」や生活するうえで最低限の「必要性」，最高水準としての「贅沢さ」の内容を併せて把握し，それらの異同性や関連性を検討することが目的であった．

有機体発達論に基づき物理的環境のみならず，対人的環境，社会文化的環境を総合して考え，またそれぞれにおいて環境の3つの質を区別して，相互の関係をあきらかする研究はこれまでなされたことがなく，この点が本研究の特色である．

方　　法

1．被調査者

老人の被調査者は291名（男性117名，女性174名），大学生の被調査者は106名（男性54名，女性52名）であった．老人と大学生の年齢については表1に示してある．

2．調査用紙の作成

Wapner et al. (1990)[3]で用いた調査用紙は，それぞれのカテゴリーで最大10項目まで自由に記入するというものであったが，このような形式では老人を対象にした調査は難しいので，項目のリストの中から選択するというチェック・リスト形式にした．先の研究から得られた項目を参考にしてチェック・リストの項目が選定され，調査用紙の原案が作成された．武蔵野市福祉保険部の方にこの原案を検討してもらい，わかりやすい言葉遣いに修正し，また新たに項目を追加するなどして，調査用紙の最終案が作成された．

3．調査用紙の構成

調査用紙は，まず最初にフェイス項目（性別，年齢，学歴，経済状態，職業－退職者については退職前の職業，主婦の場合は配偶者の職業，住居の種類，健康状態，趣味，興味・関心）を記入するようになっていた．

つづいて，環境の3側面―「物理的環境」，「対人的環境」，「社会文化的環境」―それぞれで環境の3つの質―「必要性」，「快適性」，「贅沢さ」―について示されている項目（項目の数はそれぞれ異なり，物理的環境の必要性は51項目，快適性は52項目，贅沢さは30項目，対人的環境の必要性は21項目，快適性は19項目，贅沢さは13項目，社会

表2　環境の3側面それぞれにおける必要性，快適性，贅沢さで高選択率の10項目

	必要性		快適性		贅沢さ	
	大学生	老人	大学生	老人	大学生	老人
環境	% 項目	% 項目	% 項目	% 項目	% 項目	% 項目
	97.1 水	85.8 食物	64.6 自然	67.7 家屋・住居	85.6 自家用飛行機	92.8 自家用飛行機
	93.2 食物	83.1 水	56.6 冷暖房器具	62.5 自然	78.4 プールつきの家	83.1 プールつきの家
物	85.4 火	79.0 電気	51.5 電話	60.8 空気	72.2 使用人	77.5 高級自家用車
理	79.6 空気	70.8 衣服	50.5 風呂	60.3 水	71.1 毛皮	75.0 ヨット
的	75.7 衣服	68.9 空気	46.5 家屋・住居	59.5 年金	69.1 ヨット	69.5 血統のあるペット
環	68.9 電気	64.8 家屋・住居	45.5 冷蔵庫	58.2 風呂	60.8 別荘	69.5 高級ホテル
境	64.1 トイレ	59.4 布団	44.4 水	52.6 新聞	60.8 高級ホテル	67.8 毛皮
	55.3 家屋・住居	55.3 火	44.4 空気	50.9 冷暖房器具	60.8 高級自家用車	66.9 別荘
	38.8 布団	44.3 風呂	38.4 個人の部屋	44.4 電話	58.8 血統のあるペット	56.8 高級住宅
	37.9 ガス	41.6 病院	34.3 洗濯機	40.1 洗濯機	54.6 ブランド商品	56.8 ブランド商品
	95.0 家族（関係）	86.8 家族（関係）	97.8 友人・親友	97.3 近隣・地域の人々	96.7 使用人	92.5 秘書
	94.0 友人・親友	85.1 配偶者	92.5 恋人	93.8 家族	93.5 家政婦	90.5 使用人
対	88.0 親・両親	85.1 医者・看護婦	92.5 話し相手	87.5 兄弟・姉妹	89.1 秘書	81.9 家政婦
人	84.0 愛（情）	83.8 親子（関係）	91.4 家族	83.9 趣味仲間	78.3 愛人	77.9 愛人
的	82.0 親子（関係）	82.1 近隣・地域の人々	83.9 趣味仲間	83.5 配偶者	46.7 文通相手	59.8 恋人
環	74.0 相談相手	71.5 友人・親友	69.9 兄弟・姉妹	83.5 友人・親友		
境	65.0 恋人	65.5 愛（情）	67.7 先輩・同僚・後輩	78.6 親戚		
	61.0 医者・看護婦	65.1 兄弟・姉妹	63.4 サークル（活動）	73.2 話し相手		
	60.0 兄弟・姉妹	63.4 礼儀	62.4 配偶者	61.2 警察官		
	50.0 礼儀	54.5 親・両親	55.9 近隣・地域の人々	52.2 孫		
	78.4 平和	72.9 道徳	92.4 余暇	95.0 安定した老後	86.2 盛大なパーティー	95.1 盛大なパーティー
社	65.7 基本的人権	67.2 憲法	86.7 プライバシー	93.7 年金制度	84.0 派手な結婚式・披露宴	91.5 派手な結婚式・披露宴
会	63.7 道徳	62.9 教育	65.7 学校の休み	88.7 社会福祉制度	80.9 欲しいものがいつでも	80.9 欲しいものがいつでも
文	61.8 常識	61.1 平和	65.7 社会保障	78.8 社会保障	手にはいる	手にはいる
化	58.8 平等	58.5 保健・医療制度	61.0 教育	70.7 教育	77.7 働かないでも生活	76.8 立派な葬式
的	55.9 プライバシー	55.5 年金制度	59.0 安定した老後	68.9 法律	できる制度	67.1 働かないでも生活
環	51.0 治安	52.0 社会福祉	55.2 社会福祉制度	63.1 プライバシー	67.0 立派な葬式	できる制度
境	43.1 教育	51.1 法律	54.3 芸術	61.7 憲法		
	40.2 民主主義	46.3 治安	52.4 挨拶	56.8 挨拶		
	35.3 保健・医療制度	43.2 基本的人権	49.5 祝祭日	50.0 余暇		

文化的環境の必要性は38項目，快適性は24項目，贅沢さは11項目）の中から，10項目（対人的環境と社会文化的環境の贅沢さではそれぞれ5項目）選択するように求めた．ここでの回答は，それぞれの現在の生活を基準にするのではなく，一般的な生活を想定して回答するよう求めた．選択する時の基準は，必要性の場合では「人間が最低限の生活をしていく上で必要だと思うもの」，快適性では「人間が快適な生活をするために重要だと思うもの」，贅沢さでは「一般的に考えて贅沢だと思うもの」であった．なお，示された項目の中に当てはまるものがない場合には，その他の欄に記入するようになっていた．

さらに，選択された10項目（もしくは5項目）の中で順位をつけた場合，1番目，2番目，3番目にくる項目を選ぶよう求めた．

次に，現在住んでいる周囲の環境に関して，環境の3側面それぞれで必要性，快適性，贅沢さについて0を最低とし6を最高として評価するように求めた．

最後に，現在生活している環境が全体としてどのような感じであるかを，1：最低限は満たしている，2：やや快適である，3：快適である，4：やや贅沢である，5：ぜいたくである，の中からあてはまるものを一つ選択するようになっていた．

4．調査期日

老人に対する調査は1990年5月から6月の間に実施された．また，学生に対する調査は1990年7月から9月の間に実施された．

5．調査手続

表 3　物理的環境の必要性，快適性，贅沢さにおける学生と老人の比較

No.	必要性	選択数(%) 学生	選択数(%) 老人	χ^2 (df=1)	No.	快適性	選択数(%) 学生	選択数(%) 老人	χ^2 (df=1)	No.	贅沢さ	選択数(%) 学生	選択数(%) 全体	χ^2 (df=1)
1	布団	38.8	59.4	11.84**	4	眼鏡	19.2	30.2	4.26*	3	自動車電話	53.6	39.8	5.30*
5	風呂	29.1	44.3	6.75**	6	オーディオ	28.3	0.4	67.34**	9	自家用飛行機	85.6	92.8	4.26*
7	自家用車	5.8	0.0	10.01**a)	10	新聞	16.2	52.6	37.81**	14	使用人を雇う	72.2	42.8	23.73**
10	貯金	11.7	26.9	9.53**	12	個人の部屋	38.4	12.5	28.80**	24	乾燥器	20.6	9.3	7.96**
19	自然（山・海・緑など）	54.4	32.9	13.51**	13	年金	3.0	59.5	90.44**	26	高級自家用車	60.8	77.5	9.67**
26	老人病院	2.9	13.7	8.86**	16	水	44.4	60.3	7.11**					
27	電気	68.9	79.0	3.87*	17	運動施設	16.2	6.0	8.63**					
32	水	97.1	83.1	12.59**	19	ペット	5.1	0.4	5.93**a)					
33	広場	3.9	0.0	5.74**a)	20	ビデオ	18.2	0.0	44.61**					
34	コンロ	8.7	1.4	8.65***a)	23	楽器	11.1	1.7	12.05***a)					
35	火	85.4	55.3	20.02**	27	学校	9.1	30.2	16.92**					
36	交通移動手段	11.7	2.3	12.29**	29	空気	44.4	60.8	7.51**					
39	空気	79.6	68.9	3.98*	31	貯金	18.2	37.9	12.43**					
46	年金	0.0	40.6	57.85**	35	デパート	8.1	1.7	6.31**a)					
					38	家屋・住居	46.5	67.7	13.16**					
					43	映画館	7.1	0.4	10.31***a)					
					45	コンピュータ	5.1	0.4	5.93**a)					
					46	自家用車	29.3	9.5	20.89**					
					47	ペット	5.1	0.4	5.93**a)					
					49	マンガ・雑誌	5.1	0.0	8.74***a)					
					51	スーパーマーケット	16.2	6.0	8.63**					

a) Yatesの連続性の修正をした χ^2 検定量

** $p<.01$　* $p<.05$

老人の調査手続：武蔵野市福祉保険部の協力により武蔵野市の老人クラブ連合会を通じて30の老人クラブにそれぞれ10部づつ調査用紙を配布した．配布時に，それぞれの老人クラブの２名の代表者に対して，調査の概要と回答の仕方について説明を行い，質問等に答えた．代表者が所属するそれぞれの老人クラブで10名に回答をしてもらい，老人クラブ単位で調査用紙を回収した．

学生の調査手続：授業の最後に調査用紙を配布し，調査の概要と回答の仕方について説明を行った．調査用紙への回答はそれぞれの空き時間を利用するようにし，回答し終えたものは回収箱に調査用紙を入れるように指示をした．また，特に人数の少ない授業では，授業の最初に調査用紙を配布し説明を行った後，回答するようにして授業時間内に回収した．

結果と考察

本論文では，環境の３側面それぞれで環境の３つの質について選択された項目の内容を検討する．

部分的に回答のミスがあったものは，その部分を欠損値として結果の処理から除外した．したがって，それぞれのカテゴリーでデータの数が異なっていた．

１．選択率の高い項目による分析

表１には環境の３側面それぞれにおける必要性，快適性，贅沢さで選択率の高い10項目（対人的環境と社会文化的環境の贅沢さではそれぞれ５項目）を示している．この表から老人と大学生の間における類似性や差異について，次のような点が見られた．

１．物理的環境の必要性，快適性，贅沢さのそれぞれのカテゴリーでは，老人と大学生の間で共通性がかなり見られた．一方，社会文化的環境の必要性のカテゴリーでは，共通性はやや低くなっていた．

２．社会文化的環境の側面では，環境の質が必要性，快適性，贅沢さと変わるにつれて，老人と大学生の間で共通性の高くなっていく傾向が見られた．

３．項目の内容について見てみると，社会文化的環境の必要性のカテゴリーで，老人と大学生の間で一致しなかった項目に特徴が見られた．つま

表4　対人的環境の必要性，快適性，贅沢さにおける学生と老人の比較

No.	必要性	選択数(%) 学生	老人	χ^2 (df=1)	No.	快適性	選択数(%) 学生	老人	χ^2 (df=1)	No.	贅沢さ	選択数(%) 学生	老人	χ^2 (df=1)
1	師弟（関係）	20.0	9.4	7.24**	1	兄弟・姉妹	69.9	87.5	14.01**	1	孫	14.1	5.0	7.17**
2	相談相手	74.0	51.9	14.09**	5	恋人	92.5	7.1	219.26**	2	文通相手	46.7	34.7	3.87*
3	僧侶・牧師・神父	6.0	14.0	4.41*	6	先輩・同僚・後輩	67.7	51.3	7.18**	7	頼りになる近隣・地域の人々	25.0	12.6	7.07**
4	孫	3.0	27.7	26.37**	8	親戚	33.3	78.6	59.35**	11	恋人	15.2	59.8	50.39**
6	近隣・地域の人々	42.0	82.1	53.94**	9	愛人	22.6	3.6	28.57**	13	家政婦	93.5	81.9	6.82**
9	恋人	65.0	1.7	171.85**	11	近隣・地域の人々	55.9	97.3	89.23**					
10	医者・看護婦	61.0	85.1	23.69**	12	孫	10.8	52.2	47.09**					
12	親・両親	88.0	54.5	34.44**	13	話し相手	92.5	73.2	14.62**					
13	介護人(ホームヘルパー)	4.0	20.0	13.91**	14	配偶者	62.4	83.5	16.69**					
14	先輩・同僚・後輩	37.0	17.4	15.02**	15	友人・親友(友人関係・友情)	97.8	83.5	12.57**					
15	配偶者	48.0	85.1	50.24**	19	サークル（活動）	63.4	37.9	17.23**					
16	礼儀	50.0	63.4	5.23*										
17	友人・親友	94.0	71.5	20.86**										
18	愛（情）	84.0	65.5	11.63**										
20	親類	16.0	43.8	23.72**										
21	家族（関係）	95.0	86.8	4.91*										

**p<.01　*p<.05

り，老人は憲法，法律という社会の基本的な枠組みを規定するものや社会福祉，年金制度という安定した生活を維持するための制度を必要なものとして取り上げている，一方，大学生は常識，平等，プライバシーという社会的生活をするうえで重要な概念を必要なものとして取り上げている．

また，対人的環境の快適性のカテゴリーでも老人と大学生の間で差異が見られた．老人は親戚，孫という血縁関係のある人を快適な生活をするうえで重要だと考えているが，大学生は恋人，先輩・同僚・後輩という親密な交友関係を重要だと考えている．

2．項目ごとのχ^2検定による分析

環境の3側面それぞれで環境の3つの質について示された項目ごとに老人と大学生の選択率の数値を基にχ^2検定を行った．

1．物理的環境について

表3は物理的環境の必要性，快適性，贅沢さにおいて5％以下の水準で有意差が見られた項目だけを示している．必要性では51項目中14項目，快適性では52項目中21項目，贅沢さでは30項目中5項目に有意差が見られた．

必要性では，大学生は水，空気，自然，火という項目を選択する率が老人より高くなっていた．一方，老人は電気，年金，布団，風呂という項目を選択する率が大学生より高くなっていた．この結果は，大学生は生きていくために必要と考えられる項目を，老人は最低限の生活を維持するうえで必要だと思われる項目を選択する傾向が見られた．

快適性では，大学生は，オーディオ，運動施設，ビデオ，楽器，映画館，マンガ・雑誌などの項目を選択する率が老人より高くなっていた．老人では，眼鏡，新聞，年金，水，空気，貯金，家屋・住居などの項目で選択率が大学生より高くなっていた．大学生は自分の興味や趣味に関するものを選択する傾向がみられ，老人は生活基盤そのものをより良くするものを選択する傾向が見られた．

贅沢さでは，大学生は自動車電話，乾燥器，使用人という項目で選択率が老人より高く，一方，老人は自家用飛行機，高級自動車という項目で選択率が大学生より高くなっていた．自動車電話や乾燥器というものは，老人にとってあまり贅沢だと思われないという結果であった．

2．対人的環境について

表4は対人的環境の必要性，快適性，贅沢さにおいて5％以下の水準で有意差が見られた項目だけを示している．必要性では21項目中16項目，快適性では19項目中11項目，贅沢さでは13項目中5項目に有意差が見られた．

必要性では，大学生は師弟（関係），相談相手，

表 5　社会文化的環境の必要性，快適性，贅沢さにおける学生と老人の比較

No.	必要性	選択数(%) 学生	老人	χ^2 (df=1)	No.	快適性	選択数(%) 学生	老人	χ^2 (df=1)	No.	贅沢	選択数(%) 学生	老人	χ^2 (df=1)
1	憲法	32.4	67.2	34.96**	1	葬式	11.4	35.6	20.71**	1	平和	9.6	2.0	7.98**a)
5	刑法	11.8	3.9	7.29**	3	学校の休み	65.7	7.7	123.96**	2	遺産相続	23.4	9.8	10.83**
6	常識	61.8	38.9	14.90**	5	余暇	92.4	50.0	55.31**	3	海外への新婚旅行	27.7	47.6	11.05**
7	保健・医療制度	35.3	58.5	15.23**	7	社会福祉制度	55.2	88.7	46.59**	4	お中元・お歳暮	26.6	17.1	3.90*
8	平和	78.4	61.1	9.47**	8	芸術	54.3	18.5	43.57**	7	盛大なパーティー	86.2	95.1	8.00**
9	規則	24.5	8.7	14.95**	9	学生割引	33.3	1.8	67.47**	10	派手な結婚式・披露宴	84.0	91.5	3.96*
11	教育	43.1	62.9	11.21**	10	年金制度	24.8	93.7	166.43**					
12	学校制度	3.9	16.6	10.23**	11	義務	24.8	43.7	10.89**					
13	伝統	14.7	3.1	15.43**	12	憲法	40.0	61.7	13.56**					
15	男女平等	23.5	10.9	8.90**	13	プライバシー	86.7	63.1	19.15**					
16	社会福祉	25.5	52.0	20.09**	14	法事	2.9	24.3	22.83**					
20	結婚式	1.0	7.4	5.70*	15	祝祭日	49.5	23.9	21.51**					
21	葬式	5.9	15.7	6.17*	16	法律	42.9	68.9	20.27**					
23	基本的人権	65.7	43.2	14.23**	17	社会保障	65.7	78.8	6.47*					
24	平等	58.8	16.2	62.01**	19	お正月	35.2	24.3	4.23*					
25	約束	29.4	11.8	15.37**	20	安定した老後	59.0	95.0	67.00**					
26	社会保障	16.7	39.7	17.09**	22	公営賭博	10.5	0.9	14.70**a)					
28	出版言論の自由	20.6	9.2	8.30**	24	お祭り	42.9	14.4	32.03**					
29	税金	3.9	34.5	35.12**										
30	プライバシー	55.9	12.7	68.54**										
31	年金制度	0.0	55.5	91.78**										
35	芸術	15.7	1.3	26.96**										
37	自由主義	20.6	10.9	5.52*										
38	法律	29.4	51.1	13.44**										

a) Yatesの連続性の修正をしたχ^2検定量

**p<.01　*p<.05

恋人，親・両親，先輩・同僚・後輩，友人・親友，愛（情）という項目を選択する率が老人より高くなっていた．また老人は孫，近隣・地域の人々，医者・看護婦，介護人，配偶者，親類という項目を選択する率が学生より高くなっていた．大学生は親密な交友関係を築くのに必要な人と自らを支援もしくは援助してくれるような人を選択する傾向が見られた．また，老人も自らを支援・援助してくれるような人を選択する傾向がみられたが，学生と違い，支援・援助を専門的な職業としている人や血縁・婚姻関係にある人であった．

快適性では，大学生は恋人，先輩・同僚・後輩，愛人，話し相手，友人・親友，サークル（活動）という項目の選択率が老人より高くなっていた．老人は兄弟・姉妹，親戚，近隣・地域の人々，孫，配偶者という項目の選択率が高くなっていた．大学生は必要性のカテゴリーで見られたのと同じ傾向を示しているが，横の広がりを持つ対人的関係を重要であると考えてる．一方，老人は血縁・婚姻関係にある人が重要であると考えている．

贅沢さでは，老人は恋人という項目を選択する率が大学生より高くなっていた．

3．社会文化的環境について

表5は社会文化的環境の必要性，快適性，贅沢さにおいて5％以下の水準で有意差が見られた項目のみを示している．必要性では38項目中24項目，快適性では24項目中18項目，贅沢さでは11項目中6項目に有意差が見られた．

必要性では，老人は憲法，保健・医療制度，教育，学校制度，社会福祉，社会保障，税金，年金制度，法律などの項目で選択率が大学生より高くなっていた．大学生は常識，平和，規則，伝統，平等，男女平等，約束，基本的人権，出版言論の自由，プライバシーなどの項目で選択率が老人より高くなかっていた．老人は社会の基盤を形づくる法体系や制度を必要だと考えているが，一方，大学生は社会生活をするうえで重要な概念を必要だと考えていた．

快適性では，老人は社会福祉制度，年金制度，社会保障，葬式，法事，憲法，法律，安定した老

後などの項目で選択率が大学生より高くなっていた．大学生は学校の休み，余暇，芸術，学生割引，プライバシー，祝祭日，お正月，公営賭博，お祭などの項目で選択率が老人より高くなっていた．老人は必要性のカテゴリーと同じ傾向を示していたが，大学生は自由にできる時間というものが重要と考えていた．

贅沢さでは，老人は海外への新婚旅行，盛大なパーティー，派手な結婚式・披露宴という項目を選択する率が大学生より高くなっていたが，大学生は遺産相続，お中元・お歳暮という項目を選択する率が老人より高くなっていた．

選択率の高い項目による分析と項目ごとのχ^2検定による分析から結果をまとめることができる．

老人は，物理的環境の快適性のカテゴリーで生活の基盤をより良くするものとか，社会文化的環境の必要性のカテゴリーで社会を規定する法体系や制度というものをそれぞれ重要だと考えていた．また，対人的環境の必要性のカテゴリーで血縁・婚姻関係にある人や医療・福祉の専門的な知識を持っている人を重要だと考えていた．この結果は，老人が必要性や快適性という環境の質について考えるとき，生活の基盤とか社会的基盤の安定・維持というものを基準にしているということであろう．

一方，大学生は物理的環境の快適性のカテゴリーで個人の趣味・興味に関するものとか，社会文化的環境の快適性のカテゴリーで自由にできる時間というものがそれぞれ重要だと考えていた．また，対人的環境の必要性や快適性のカテゴリーでは横に広がりをもつ交友関係が重要だと考えていた．この結果は，快適性を考える場合には，大学生は個人的な欲求充足という側面を重視するということであろう．

今後の問題点としては，項目のリストを検討することが考えられる．特に贅沢さのカテゴリーの項目をさらに増やすことである．また，今回の調査は大学生と老人を対象にしたが，この中間に位置する年齢群についても調査を行うことが必要であろう．

謝　辞

本研究は武蔵野市福祉保険部と武蔵野市老人クラブ連合会の方々にご協力いただきました．ここに記して感謝の意を表します．

引用文献

1) Wapner, S. 1988 Toward an organismic－developmental analysis of amenity in the person－in－environment system. Presented at a symposium "Creating Amenity Space : An Interdisciplinary Approach", at the 52nd Annual Convention of the Japanese Psychological Association, Hiroshima.

2) Wapner, S. 1989 Necessity, amenity, luxury : Some preliminary findings. Presented at a meeting of the Man-Environment Research Association, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

3) Wapner, S., Quilici－Matteucci, F., Yamamoto, T. & Ando, T. 1990 Cross－cultural comparison of the concept of necessity, amenity and luxury. In Y.Yoshitake, et al. (Eds.), Current Issues in Environment-Behavior Research : Proceedings of the Third Japan-United States Seminor. Tokyo : Univesity of Tokyo.